

米国 航空機を除く耐久財受注は弱含み(06年11月耐久財受注)

発表日：06年12月22日（金）

～年内の機械・ソフトウェア投資は底堅さを維持しよう～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

耐久財受注 (Advance Report on Durable Goods Manufacturers' Shipments and Orders)

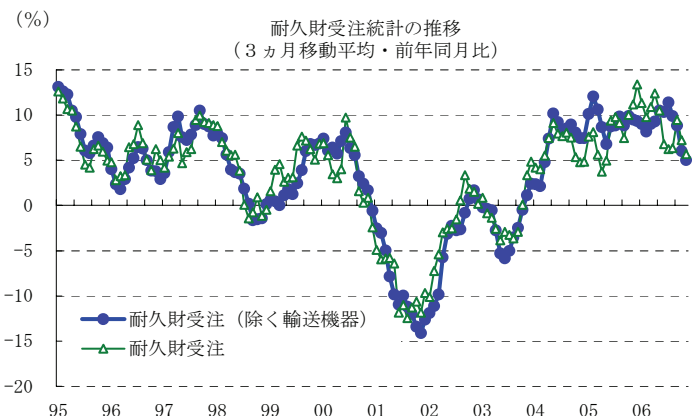
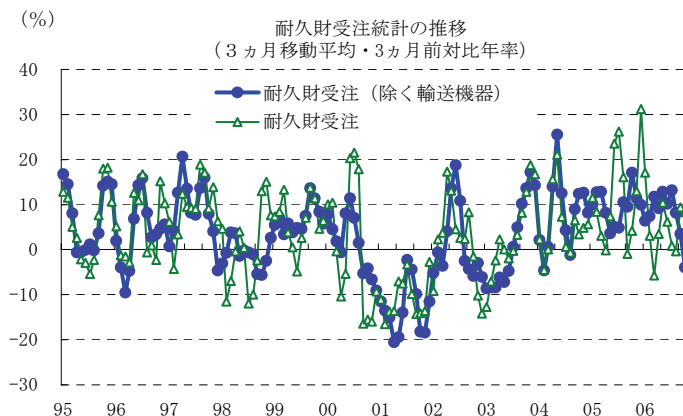
	出荷				受注				在庫			
	耐久財	除く 輸送機器		非国防資本財 除く 輸送機器	耐久財	除く 輸送機器		非国防資本財 除く 輸送機器	耐久財	除く 輸送機器		非国防資本財 除く 輸送機器
05/2Q	+0.9	+0.7	(+7.9)	+1.2	+5.4	+1.2	(+5.0)	+1.6	▲0.3	▲0.1	+0.0	
05/3Q	+1.2	+1.4	(+6.3)	+1.5	▲0.2	+2.3	(+9.5)	+1.5	+0.4	+0.5	+1.9	
05/4Q	+3.7	+3.4	(+7.9)	+3.1	+7.0	+2.4	(+10.0)	+2.4	+1.1	+0.9	+0.3	
06/1Q	+1.2	+2.8	(+8.5)	+2.5	▲1.5	+2.8	(+11.7)	+3.9	+0.9	+1.5	+1.5	
06/2Q	+1.1	+1.3	(+9.1)	+1.4	+1.5	+2.5	(+10.2)	+0.9	+2.8	+2.6	+1.4	
06/3Q	+0.2	+1.3	(+9.0)	+1.7	+2.3	+0.9	(+3.5)	+3.5	+2.9	+3.4	+3.1	
06/01	▲1.3	+1.1	(+7.9)	+1.1	▲7.6	+1.9	(+9.5)	+2.1	+0.4	+0.8	+0.7	
06/02	+0.3	+0.3	(+9.2)	▲0.9	+3.6	▲1.2	(+7.1)	▲1.0	▲0.5	▲0.3	+0.1	
06/03	+0.3	▲0.2	(+8.4)	+2.0	+6.0	+3.4	(+10.5)	+3.4	+1.0	+1.0	+0.7	
06/04	▲1.2	▲0.3	(+7.7)	+0.4	▲4.7	▲1.0	(+10.3)	▲2.1	+1.2	+1.1	+0.8	
06/05	+3.0	+2.2	(+9.4)	+0.0	+0.3	+1.6	(+10.8)	+1.3	+0.7	+0.7	▲0.0	
06/06	+0.2	+0.6	(+10.2)	▲0.2	+3.3	+1.8	(+10.0)	+0.9	+0.9	+0.7	+0.6	
06/07	▲1.3	+0.3	(+10.8)	+1.5	▲2.8	▲0.1	(+13.4)	+0.6	+1.1	+1.1	+0.9	
06/08	+2.1	+0.8	(+9.4)	+1.3	+0.0	▲1.3	(+6.4)	+1.1	+0.7	+1.2	+1.0	
06/09	▲2.7	▲2.1	(+6.7)	▲1.6	+8.7	+0.5	(+6.8)	+3.1	+1.2	+1.1	+1.1	
06/10	+0.3	+0.1	(+5.3)	▲1.4	▲8.2	▲1.6	(+4.8)	▲3.9	+0.7	+0.5	+0.4	
06/11	+0.1	▲0.1	(+4.6)	+2.1	+1.9	▲1.1	(+3.4)	▲1.4	+0.3	+0.2	+0.1	

(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。 () 内は季節調整値の前年比。

耐久財受注が前月比 +1.9%とプラスに転じたものの、輸送機械を除く耐久財受注は同▲1.1%と2ヵ月連続の減少

06年11月の耐久財受注は、前月比+1.9%と市場予想の同+1.3%を上回った。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも航空機の好調により+10.1%（前月+8.3%）とプラス幅を拡大した。輸送機器を除いた耐久財受注は、前月比▲1.1%と市場予想の同+1.0%に反し下落した。コンピューター・電子製品が増加したものの、一次金属、加工金属、一般機械、電気機器・同部品が減少した。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも▲7.2%（前月▲3.9%）とマイナス幅が拡大しているように、価格の下落、新OS発売を前にした発注の先送り等を背景に耐久財受注（除く輸送機器）のモメンタムは失速している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

高水準の受注残を背景に耐久財生産の急激な鈍化は回避されよう

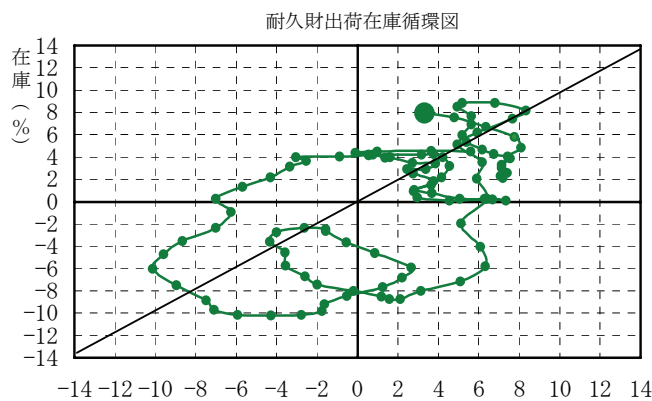
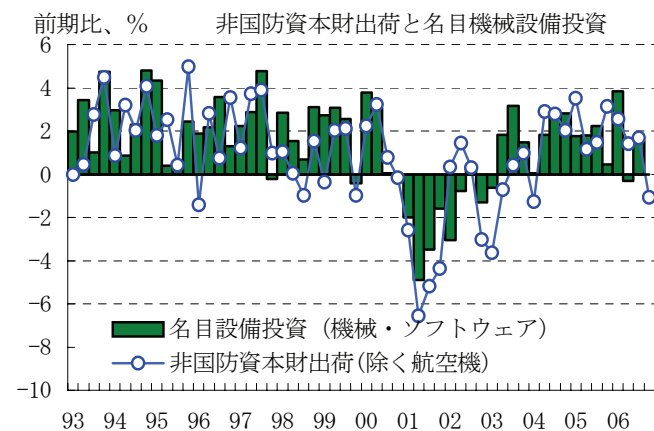
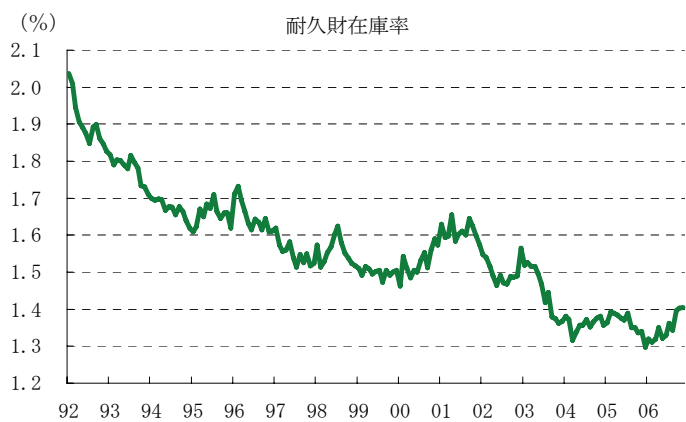
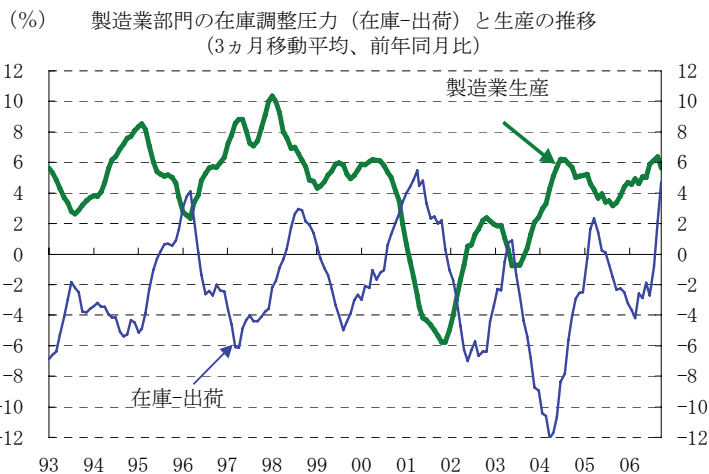
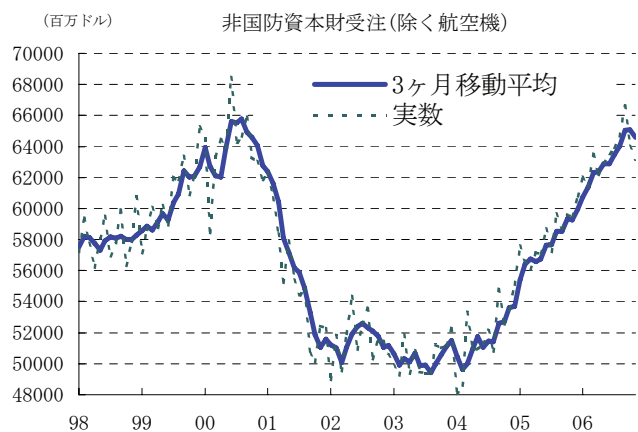
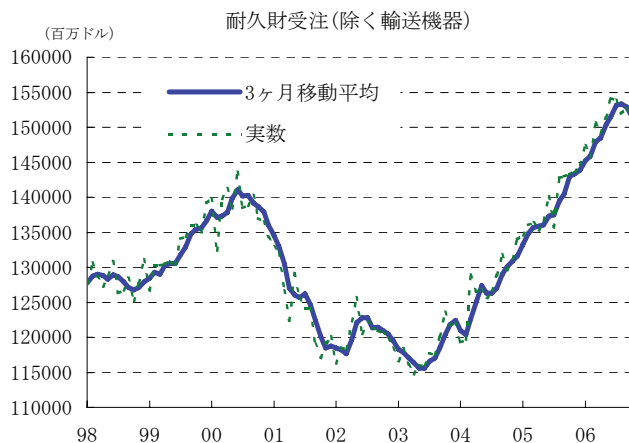
耐久財出荷が前月比+0.1%と鈍化し、耐久財在庫が同+0.3%と高い伸びとなったため、耐久財在庫率は1.405ヵ月（前月1.403ヵ月）と小幅上昇した。しかし、耐久財受注残が同+1.7%（前月同+1.3%）と加速しており、耐久財生産の急激な鈍化は回避されると予想される。

一次金属、加工金属、一般機械、電気機器・同部品が減少

業種別の受注動向をみると、輸送機械、コンピューター・電子製品が増加した。一方、価格下落の影響で一次金属、加工金属、増加が続いた反動で一般機械、電気機器・同部品が減少した。コンピューター・電子製品では、通信設備が前月比▲16.9%（前月同▲0.7%）と減少幅が拡大したものの、コンピューター・同関連製品が同+27.0%（同▲23.8%）となり、全体でも同+7.5%（同▲10.1%）とプラスに転じた。輸送機器は同+9.4%（同▲21.3%）と増加した。新車発売の影響もあり自動車・同部品が同+0.2%（同+1.7%）とプラスを維持したなか、非国防航空機・同部品が同+7.2%（同▲44.4%）とプラスに転じた。

年内の機械・ソフトウェア投資は底堅さを維持する見込み

次に設備投資関連の指標をみると、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は11月に前月比+2.1%（前月同▲1.4%）とプラスとなった。10、11月平均では7～9月期対前期比年率▲4.2%となったが、機械・ソフトウェア投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）、非国防資本財受注残（除く航空機）が7～9月期にそれぞれ同+14.6%、同+18.5%となっていることから、10～12月期の出荷もマイナス幅を縮小するとみられることから、同期の機械・ソフトウェア投資は底堅さを維持しよう。



(注) 3ヵ月移動平均。前年比

出荷 (%)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。